

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年2月14日聖日礼拝

使徒の働き連講(70)

「アグリッパ王への弁明」

使徒の働き25章13節-26章14節

竿代照夫牧師

聖書朗読 新約聖書

使徒の働き

25章13節～26章14節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています

第二版の聖書は 257 ページ

第三版の聖書は 280 ページ

- 13 数日たってから、アグリッパ王とベルニケが、フェストに敬意を表するためにカイザリヤに来た。
- 14 ふたりがそこに長く滞在していたので、フェストはパウロの一件を王に持ち出してこう言った。「ペリクスが囚人として残して行ったひとりの男がおります。」
- 15 私がエルサレムに行ったとき、祭司たちとユダヤ人の長老たちが、その男のことを私に訴え出て、罪に定めるように要求しました。

16 そのとき私は、『被告が、彼を訴えた者の面前で訴えに対して弁明する機会を与えられないで、そのまま引き渡されるということはローマの慣例ではない』と答えておきました。

17 そういうわけで、訴える者たちがここに集まったとき、私は時を移さず、その翌日、裁判の席に着いて、その男を出廷させました。

18 訴えた者たちは立ち上がりましたが、私が予期していたような犯罪についての訴えは何一つ申し立てませんでした。

19ただ、彼と言い争っている点は、彼ら自身の宗教に関することであり、また、死んでしまったイエスという者のことで、そのイエスが生きているとパウロは主張しているのです。

20このような問題をどう取り調べたらよいか、私には見当がつかないので、彼に『エルサレムに上り、そこで、この事件について裁判を受けたいのか』と尋ねたところが、

21パウロは、皇帝の判決を受けるまで保護してほしいと願い出たので、彼をカイザ

ルのもとに送る時まで守っておくように、命じておきました。」

22すると、アグリッパがフェストに、「私も、その男の話を聞きたいものです」と言ったので、フェストは、「では、明日お聞きください」と言った。

23こういうわけで、翌日、アグリッパとベルニケは、大いに威儀を整えて到着し、千人隊長たちや市の首脳者たちにつき添われて講堂に入った。そのとき、フェストの命令によってパウロが連れて来られた。

24そこで、フェストはこう言った。「アグリッパ王、ならびに、ここに同席の方々。ご覧ください。ユダヤ人がこぞって、一刻も生かしてはおけないと呼ばわり、エルサレムでも、ここでも、私に訴えて来たのは、この人のことです。

25私としては、彼は死に当たることは何一つしていません。しかし、彼自身が皇帝に上訴しましたので、彼をそちらに送ることに決めました。

26ところが、彼について、わが君に書き送るべき確かな事が一つもないのです。

それで皆さんの前に、わけてもアグリッパ王よ、あなたの前に、彼を連れてまいりました。取り調べをしてみたら、何か書き送るべきことが得られましょう。

27 囚人を送るのに、その訴えの個条を示さないのは、理に合わないと思うのです。」

1 すると、アグリッパがパウロに、「あなたは、自分の言い分を申し述べてよろしい」と言った。そこでパウロは、手を差し伸べて弁明し始めた。

- 2 「アグリッパ王。私がユダヤ人に訴えられているすべてのことについて、きょう、あなたの前で弁明できることを、幸いに存じます。
- 3 特に、あなたがユダヤ人の慣習や問題に精通しておられるからです。どうか、私の申し上げのことを、忍耐をもってお聞きくださるよう、お願いいたします。
- 4 では申し述べますが、私が最初から私の国民の中で、またエルサレムにおいて過ごした若い時からの生活ぶりは、

すべてのユダヤ人の知っているところです。
す。

- 5 彼らは以前から私を知っていますので、証言するつもりならできることですが、私は、私たちの宗教の最も厳格な派に従って、パリサイ人として生活してまいりました。
- 6 そして今、神が私たちの父祖たちに約束されたものを待ち望んでいることで、私は裁判を受けているのです。

- 7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕えながら、その約束のものを得たいと望んでおります。王よ。私は、この希望のためにユダヤ人から訴えられているのです。
- 8 神が死者をよみがえらせるということ、あなたがたは、なぜ信じがたいこととされるのでしょうか。
- 9 以前は、私自身も、ナザレ人イエスの名に強硬に敵対すべきだと考えていました。

10そして、それをエルサレムで実行しました。祭司長たちから権限を授けられた私は、多くの聖徒たちを牢に入れ、彼らが殺されるときには、それに賛成の票を投じました。

11 また、すべての会堂で、しばしば彼らを罰しては、強いて御名をけがすことばを言わせようとし、彼らに対する激しい怒りに燃えて、ついには国外の町々にまで彼らを追跡して行きました。

12 このようにして、私は祭司長たちから
権限と委任を受けて、ダマスコへ出か
けて行きますと、

13 その途中、正午ごろ、王よ、私は天か
らの光を見ました。それは太陽よりも
明るく輝いて、私と同行者たちとの回
りを照らしたのです。

14 私たちはみな地に倒れましたが、そのとき声があって、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。』

説教

使徒の働き連講（70）

「アグリッパ王への弁明」

使徒の働き

25章13節-26章14節

竿代照夫牧師

主テキスト

「サウロ、サウロ。なぜわたしを
迫害するのか。

とげのついた棒をけるのは、
あなたにとって痛いことだ。」

(使徒の働き 26 : 14)

前回：皇帝への上訴という形で「筋を通した」パウロの姿勢に学ぶ

A．ヘロデ・アグリッパの登場

1．ヘロデ家代々の「反キリスト的」行動

- ・ヘロデ大王(40～4BC)

 - <ベツレヘムの幼児虐殺>

- ・ヘロデ・アンテパス

 - (大王の子：～39AD)

 - <ヨハネを斬首>

A . ヘロデ・アグリッパの登場

1 . ヘロデ家代々の「反キリスト的」行動

- ・ヘロデ・アグリッパ1世

(大王の孫: 39 ~ 44)

< 使徒ヤコブを処刑 >

- ・ヘロデ・アグリッパ2世

(48 ~ 66)

< パウロのローマ送達 >

2. ヘロデ・アグリッパ2世

- ・ローマの宮廷で教育と皇帝の恩顧
- ・ローマ総督と連帯してユダヤ周辺を支配
- ・ユダヤ教的な背景
- ・異母妹のベルニケと「結婚」

3. フェストを表敬訪問(25:13-22)

- ・カイザリヤ訪問
- ・フェストの要請: パウロ裁判について
助言して欲しい

4 . パウロを非公式に審問(25:23 ~ 27)

- ・ 審問の開始 : 着飾った大名行列のよう
- ・ 審問の目的 : 上訴の理由を記す送付状作成のため

B . パウロの弁明

1 . 挨拶 (26 : 1 ~ 3)

- ・ 弁明の開始
- ・ アグリッパへの期待 :
ユダヤ教の理解者として

2. 律法に従い、メシヤを待ち望む生涯

(26:4 ~ 8)

- ・パウロの過去：律法に忠実な学徒
- ・メシヤ待望の告白：復活信仰とメシヤ待望の関連

3. 教会の迫害(26:9 ~ 11)

- ・律法への忠実さのゆえに
- ・限度を超えた過激行動
- ・国外への追跡
散らされたクリスチャンを狙って

4 . 復活のキリストとの出会い(26:12 ~ 14)

- ・天からの光 : 眩いばかり
- ・天からの声 : 「サウロ、サウロ、何故私を迫害するのか。」
- ・天からの声 : 「とげつき棒を蹴るものは、自分を痛める」
- ・言葉そのものの意味 : 牛がとげつき棒を蹴れば傷つくのは自分
- ・棒を蹴っていたパウロ : 教会の迫害、それも限度を超えて
- ・パウロの痛み : 良心の呵責

おわりに

とげつき棒を蹴るのをやめよう